

走れ!しずてつ

静岡の地域交通を担ってきた静岡鉄道。

その歴史は、明治時代に始まり、日本の近代化に伴い発展した静岡を支えてきました。

静岡鉄道は、静岡茶を清水港から海外に輸出するため、茶の集積地である安西と清水港を結ぶことを目的として建設されました。

一方静岡及び清水の市街地での人口増加に伴い、次第に旅客輸送の重要性も増しました。

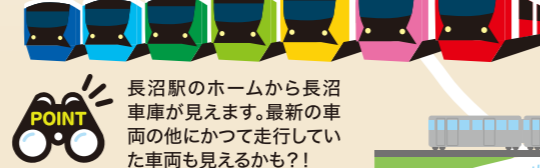
1929年に静岡市内線、1933年には、清水市内線の二つの路面電車が新たに開通し、静岡と清水の二都市間を連絡する静岡鉄道が形作られました。

時代の流れの中で、路面電車は姿を消しましたが、静岡鉄道は、今も静岡と清水を結んでいます。

静岡鉄道の歩みを通して、特に戦後の高度成長もたらした人々の暮らしや街の景観が大きく変貌した静岡の歴史を探ります。



POINT “三社参り”のひとつに数えられた静岡浅間神社。美しい楼門は必見です!



POINT 静岡縣護國神社 “三社参り”のひとつに数えられた神社です。

POINT 県総合運動場駅の西側でJR東海道本線、JR東海道新幹線と交差するめずらしい光景が見られます。

I章 静岡鉄道の 明治・大正・昭和

静岡茶は、長旅による品質の劣化を防ぐために、茶箱に詰められ海外に輸出されました。茶箱の外側には茶箱絵が貼られ、カラフルに装飾されて、人びとの眼を楽しませました。輸出先は、米国が大半を占めました。



茶箱 (明治時代 当館所蔵)

II章 戦後の静岡と静岡鉄道

1927(昭和2)年の狐ヶ崎遊園の開園を記念して、そのテーマソングとして制作されたのが、ちゃっきりぶしです。静岡を代表する郷土民謡となるよう、北原白秋に作詞を依頼し、作曲を町田嘉章が担当しました。高度経済成長を果たした1968(昭和43)年に、狐ヶ崎遊園は狐ヶ崎ヤングランドとしてリニューアルオープンしました。デンマーク・コペンハーゲンの「チボリ公園」を模して造られ、ボウリング場に加えて、夏季はプール、冬季はスケートの営業も行い、多くの人びとで賑わいました。



北原白秋自筆 歌詞原稿(ちゃっきりぶし) 1927(昭和2)年(静岡鉄道株式会社所蔵)



空から見た狐ヶ崎ヤングランド (提供/静岡鉄道株式会社)

鉄道模型で 電車を走らせよう!



コントローラーを使って、電車を動かしてみよう!
これで君も電車の運転手だ!

体験の詳細はHPでお知らせします!

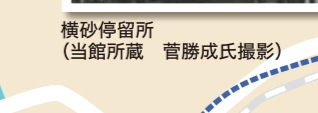


III章 七夕豪雨と 清水市内線の廃止

1974(昭和49)年7月に静岡を襲った「七夕豪雨」により、静岡鉄道も大きな被害を受けました。特に清水市内線の被害は甚大なものがあり、多くの人びとはその存続を望んだにもかかわらず、最終的には廃線のやむなきに至りました。これにより、静岡の路面電車は姿を消すことになります。



駅名標(横砂) (静岡鉄道株式会社所蔵)



横砂停留所 (当館所蔵 菅勝成氏撮影)

静岡市内線 1929年~1962年



静岡清水線



清水市内線 1933年~1975年



IV章 静岡鉄道を支え続けた 1000形車両

1973(昭和48)年にさっそうとデビューしたのが1000形車両です。オールステンレス製の新車は静岡鉄道の近代化を象徴するものでした。地方鉄道が車両を新車で導入する事例は珍しく、静岡鉄道の並々ならぬ意気込みが感じられます。



1000形車両(提供/静岡鉄道株式会社)

V章 A3000形車両の登場

1000形車両に替わる主力車両として導入されたのが、A3000形車両です。「都会的なデザインに一押し、より魅力的な街づくりに貢献すること」をコンセプトにしています。



A3000形車両(提供/静岡鉄道株式会社)

VI章 記念きっぷに見る静岡の歴史

草薙野球場は、1930(昭和5)年に静岡鉄道が建設しました。1934(昭和9)年11月20日に草薙野球場で開催された日米野球で、沢村栄治がメジャーリーグ選抜チームに対して8回で9三振を奪う好投をしたことが、今も伝えられています。記念きっぷから、静岡鉄道の歴史とともに、戦後史をたどることができます。戦後になって、静岡県により周辺の運動公園としての整備が進められる中で、野球場は老朽化により、1971(昭和46)年から全面改装され、この時に、内野スタンドとナイター設備が完成しました。

静岡草薙野球場 ナイター開始 記念乗車券 (池上茂之氏所蔵)



清水港テルファー(クレーン)について詳しくはコチラ